

<p>第 77 号 平成 27 年 4 月 HPに創刊号から 連載中</p>	<p style="text-align: center;"><b>もう一つの道</b></p> <p>情報は、うのみにせず、注意深く徐々に試してください。</p>	<p>山田整骨院 熊本市中央区出水 4-25-1 096-364-7611 <a href="http://yamadasu.com/">http://yamadasu.com/</a> <a href="http://www/jiko-kumamoto.net/">http://www/jiko-kumamoto.net/</a></p> <p>熊本交通事故, 山田整骨院 <input type="button" value="検索"/></p>
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <h2 style="margin: 0;">三号機の 威力</h2> <p style="margin: 0;">西会会員 <b>増田 竹重</b> 月刊西医学 昭和 35 年 8 月号</p> </div> <p>西式健康法は西勝造先生が初めてその原理を世間に公表され、つづいて丸の内あたりの会社などで盛んに講演されて、その確信ある学説と該博なる知識と現代医学に対する痛烈な批判などによって世人を驚倒せしめられた頃から、その先生の講演に感激して毛管、金魚運動を夢中になって実行していた、今は亡き兄より聞いていたが、まだ若くして肉体的苦痛を持たなかった青年時代の私としては、西式健康法の合理性、科学性に敬服はしたものの、積極的に実践することもなく、やがて学校を卒業後教職につき、昭和 5、6 年頃から盗人のようにしのび寄った便秘に苦しみ始め、遂には昭和 15 年、当時流行した嗜眠性脳炎に襲われた。</p> <p>医師の手当てでどうにか回復したものの、身体に力なく、特に関節が不自由で、寝転びながら、片肘で身体を支持することが出来ず、厠(かわや)に行っても屈むことが不可能、辛うじて屈むことができて、次は立ち上がりで一苦勞といった状態で、或はこのまま身体不自由者として一生を終るのではないかと危惧にかられていた時、突如として脳裏にうかび上がったのが西式健康法であった。</p> <p>強度の脳溢血に倒れて死を宣告されたが、西式健康法で以前に増した健康を取り戻した人、顔面がつぶれてしまう程の強度な顔面神経痛の老人が熱心な西式健康法の実践によって無類の健康を克ち得た事実を目撃したことも手伝って、早速四国善通寺の断食寮に入寮した。</p> <p>断食 8 日間、食いしんぼうの自分には苦痛だったが、その報いは歴然たるもの、嗜眠性脳炎の後遺症は一挙に払拭されて、天にも昇る思いで西式健康法に心からなる感謝の念を捧げたのであった。</p> <p>しかしながら、自らの不徳不明と、当時の時局から急激に繁忙の度を増した職務のため、西式健康法は次第に念頭から離れて行き、再び西式健康法を思い出した時は既に救い難い頑固な便秘症に苦しみもがく自分を見出していた。どんな方法を講じても解消出来ないこの悪魔から逃れようとして、遂に逃れ得ず、時には全く生きることの喜びも失った。</p> <p>この度、長い間の地方生活に終止符を打って東京で働くこととなり、西医学のメッカである健康会館に勤務の帰り道に立ち寄って、三号機にかかり、温冷浴をたのしみ、今度こそは徹底的に西医学を実践して真の健康を回復し、少しでも多く世のため人のために、又自己の修養にも努めたいと努力している次第である。呑気な長年の地方生活の後、雑踏極まりない東京の生活と、終日箱のようなビルの一室に閉じこんで、細かい文字の辞書と首っ</p>		

引きの翻訳の仕事はかなりの疲労を肉体の上に及ぼしたが、温冷浴はその疲労を一挙に洗い流して、その日の疲労をそのまま下宿まで（一人の生活だから）持ち帰ったことはなく、真に爽快な日々を楽しむことを実に幸福と思っている。

三号機を利用し始めてから約3週間、4、5日前何気なく鏡を見たところ、驚く勿れ、一大発見をしたのである。それは約十年間にわたって悩み抜いた結膜炎によって全く消失していた下瞼の睫毛がきれいに生えていたことである。地方にいた頃、一度は継続六ヶ月、今一度は同じく十カ月の長期間眼科医に通院したが、遂に希望を持つことが出来ず、その治療をあきらめた結膜炎であった。この新生の睫毛を発見した時のよろこびは言語に絶する。これと同時に眼部全般にわたって感じていた重苦しい気分と蓋をされたような重苦しい感じが薄紙をはぐように消えて行き、かつてない程の現在の眼の酷使にも不拘、疲労を感じることが極端に軽減された。これによって西医学の真剣な応用は永年の便秘位をわけなく退治して了う確実な見通しがついた。明るい気分である。今まで永年の間に西先生の著書は殆ど全部熟読して観念的には西医学を理解したつもりだったが、この睫毛事件は西医学の偉大さを筆者に明白に体識させたわけである。…以下略

## 解 説

三号機とは山田整骨院で使用している運動療法の機械のことです。機械の特徴は、西医学健康法の運動、懸垂を電動により自動化したことです。金魚運動で脊椎の左右の歪みを矯正し神経への圧迫を除くことにより神経の働きを正常化し、腹部を動かし腸を刺激して便秘を解消し、背骨の脇を走る交感神経幹を動かして交感神経を刺激し、腹部の副交感神経を動かして副交感神経を刺激して自律神経のバランスを整えます。毛管運動で全身すみずみまで血液の循環を旺盛にして新陳代謝を活発にします。通常血液循環は血液が動脈、毛細血管、静脈と流れるのですが、毛管運動では動脈から毛細血管を通らず、動静脈吻合という動脈と静脈を直接結ぶ血管を通して静脈へ流れますので、超高速血液循環となります。それ故に新陳代謝が活発になるということです。又、懸垂というのは、顎を皮具で三号機に固定して三号機を傾斜させて、身体をぶら下げてその重みで頸椎、胸椎、腰椎を牽引して歪みを矯正して、神経への圧迫を取り、神経の働きを正常にするということです。病気つまり、身体の具合が悪いということは、毒素や老廃物が溜まっている状態であり、又、自律神経失調の状態であり、新陳代謝が悪い状態であり、血液循環が悪い状態です。病院ではそれらに対して投薬、手術で対応します。しかし、それには限界があります。脳溢血や顔面神経痛が回復したことや、睫毛が再生したということは、新陳代謝が活発となって、古い細胞組織がなくなり、新生細胞組織が出現したということです。

つまり結膜炎だけでなく、新陳代謝がきちんと行なわれれば全ての細胞組織が新しくなるということであり、第74号の子供の聾啞が治ったのもこのためです。病院で治らないと言われても、良くなる可能性はあるということです。